

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 **最終**)

中学校区 校番4 学校名 呉市立広中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 知	確かな学力を育成する。	(1)落ち着いた雰囲気 で授業を進め、基礎学力を 定着させる。	実力テストについては、すべての学年、教科において、目標 値の地域平均を下回っている。地域平均との差について は、1学年では5教科中1教科、2学年では2教科、3学年で は3教科が前期と比較して差が縮まった。しかし、未だ全学 年において、学習内容の定着に課題がある。	引き続き、学習規律マニュアルを徹底すると ともに、授業のめあてを明確に示していく。ま た、各授業の中で、生徒に思考させる時間を 意図的に仕組み、学習内容の定着を図って いきたい。
			各項目(人の話を聞く、落ち着いて授業を受ける)に関わる 生徒の生活アンケートの肯定的な回答の割合は、全ての学 年において上昇した。学年集会での声掛けや教室環境の整 備など、落ち着いた雰囲気づくりに取り組んだ。	引き続き、学習規律マニュアルに沿って、学 習に向かう姿勢を徹底させる。黙想、授業の 開始と終了時の挨拶を徹底させるよう全教員 で取り組み、学習姿勢に対する生徒の意識 向上を図る。
			タブレット使用状況調査で、「タブレット端末を活用するのは 勉強に役立っている。」と回答した割合は95.9%であり、目標 の90%を達成している。中間に実施した調査の回答から1%下 がっているが、目標値を上回った達成値となっている。	課題や目的に応じてタブレットを使用する場 面を家庭学習や授業で設定することで、タブ レットの学習における効果的な活用を定着さ せ、更なる活用の向上を図っていきたい。
** 徳	豊かな心を育成 する。 貫	(2)規範意識を育 成する。	各項目(挨拶、返事、掃除)の肯定的な回答の割合は、全体 で94.1%だった。項目別では、「挨拶」「返事」「掃除」はそれぞ れ96.4%、90.1%、95.7%であり、いずれも目標値を上回った。	各委員会を中心に、自発的に各項目(挨拶、 返事、掃除)が達成できるように、「あいさつ 運動」、「黙動流汗清掃」などに取り組む。
		(3)自己肯定感を 育成する。	「自分には良いところがある」の項目の肯定的な回答の割合 は、全体で86.9%だった。学年別では、それぞれ88.4%、 85.0%、87.3%であり、いずれも目標値を上回った。ただ、全体 的に90%に達していないのが課題である。	体育大会、合唱コンクール、などの学校行事 やクラスマッチなどの学年や学級活動の中で 自己肯定感を高める機会を設けていく。
* 体	健やかな体を育 成する。	(4)基本的な生活 習慣を定着させ る。	強化週間中の生活リズム(早寝・早起き・朝ごはん)メディア 接触時間については、各自の目標値を達成できた。生徒全 体で73%となり、夏休みと比較すると10%下がった。又、12 月に実施した生活アンケート結果では、1時以降に寝る生徒 は1年3.8% 2年9.7% 3年19.6%だった。朝食につ いては90%以上の生徒がきちんと食べてきていた。3時間 以上のメディア接触(動画など)は1年25% 2年25% 3 年18%だった。傾向として夜遅くまで起きて、自身のメディア コントロールが難しい生徒が多く、保健室来室者からも睡眠 不足を訴えての来室が多かった。	今後は継続して健康な生活をするための基 盤である規則正しい生活リズムについて、定 期的に意識する取組や、保護者を巻き込んだ 実態把握なども考えていきたい。
		(5)体力・運動能 力を向上させる。	各学年、長距離走の授業の最初に目標タイムを設定させ た。1年生は78.8%の生徒が、2年生は75.4%の生徒が、3年生 は82.5%の生徒が「目標を達成することができた」という質問 に肯定的な回答をしていた。目標タイムに向けて、一生懸命 に取り組む生徒も多い中、息が上がるとすぐに歩き出す生 徒や、ペース配分を間違え、後半失速する生徒もいたこと が、それぞれ個人の目標達成につながらなかったのではない かと考える。	長距離走の授業では、一定のペースで走り 続けるための走り方について、さらに指導を 充実させていく必要がある。 その他の単元でも「個人での目標設定」と「諦 めず最後までやり抜く」という取組を行って いきたい。
* 信頼される学校 づくりを行う。		(6)開かれた学校 を目指す。	「広中央中学校は情報発信を行っている」と肯定的に回答 する保護者の割合89.5%と目標値を達成できなかったもの の、上半期に比べて8.6%上昇した。学校だよりに本校ホー ムページにアクセスできるQRコードを紹介したことや、引き 続き、各学級・学年による定期的な通信の発信の結果と考 えられる。「広中央中学校の教育に満足している」と肯定的 に回答する保護者の割合76.9%で目標値を達成できなかつ たが上半期に比べ上昇した。生徒と向き合う時間を確保し、 密な保護者連携を意識した結果だと考えるが、継続して取 組む必要がある。	開かれた学校を目指すため、引き続き定期 的な通信の配布やホームページ更新を行 い、学校の様子を発信していく。学校ホーム ページにアクセスできるQRコードも有効活用 していく。 また、生徒と向き合う時間を確保し、密な保 護者連携を行っていき、「安心・安全」と思 える学校体制を確立させる。
		(7)「自分の命は 自分で守る」力の 育成	災害別に、自宅・学校からどの避難所に逃げればよいかを 知っているかという問いに対して、肯定的な回答が平均して 86.6%となり、目標に達していなかった。中間よりも8.8%下 回っており、対策が必要だと考える。	避難訓練や防災に関わる授業を通して、災 害の性質に合わせてどのような場所に避難 すべきか具体的に考えさせる機会を定期的 に確保し、生徒の「自分の命は自分で守る」 力を育成して行きたい。
業務改 善	働き方改革を推 進する。	(8)生徒と向き合 う時間を確保す る。	肯定的回答は73.3%と目標値を達成できていないが、中間よ りも肯定的回答が16%と増えた。特に「あてはまる」は1 9%から33%に上昇した。	積極的な生徒指導を行うなかで、生徒に指 導の意味や必要性を伝えながら生徒に寄り 添った対応が生徒と向きあう時間につなが っている。
		(9)長時間勤務を 削減する。	時間外勤務が月平均45時間以内の常勤の教職員数は12 月で29人中15人であった。土日の部活動等もあり時間外 勤務が45時間以内にならない職員が多い。	試験週間や試験期間、長期休業中は定時に 退勤する。また、冬季は部活の終了時間も早 いので計画的に仕事を進めながら長時間勤 務を削減していく。